



マスコミ青山

会報

Nov.2007 No.26

作家佐藤多佳子氏特別インタビュー

今年「一瞬の風になれ」(講談社刊)で第二八回吉川英治文学新人賞および第四回本屋大賞というダブル受賞をはたし「躍ベストセラー作家になった佐藤多佳子さん。青春小説の旗手ともいわれいまもっともホットな作家のひとつです。佐藤さんは本学院文学部史学科卒業というところでさっそく本誌のインタビューに応じていただきました。(聞き手：会報編集部鈴木章、小竹香美)



(佐藤多佳子さん)

(編) 編集部 今回のダブル受賞おめでとうございます。(佐藤) ありがとうございます。そのおかげといいますが取材がものすごく増えてしまいました。(編) 佐藤さんは青学大卒業ということですが、どのような学生生活だったのか、そのあたりからお聞かせいただけますか。

(佐藤) 中学からですので十年間青山です。大学はちよつと青山キャンパス最後の世代でしたね。学部は文学部の史学科で卒業は江戸時代でした。(編) サークルのほうはなにか入ってましたか。(佐藤) 児童文学サークルに入りました。十名程度の小さなサークルでしたが、活動は週に二回ほどの読書会とサークル誌の発行ですね。サークル誌は毎年出すのですがいつもは手書きのおそまつなものです。でも二年に一回は活字のちゃんとした印刷物を出しています。(編) 児童文学がもともと好きだったんですね。(佐藤) 中学から高校時代とずっと児童文学の本は好きでした。オタク的だったかも知れませんがね。

(編) 今年以前の作品「しゃべれどもしゃべれども」が映画になりました。このモチーフになっている落語はどのようなところから発想なされたのでしょうか。(佐藤) 森田芳光監督の「のようなもの」という映画がありましたよね。あの映画でもまだ落語家になれない若い人の日常というものに興味があったんです。(編) この作品でいちばん苦労なされたことはなにかありましたか。

(佐藤) 二十六歳男性の主人公(二つ目の「三つ葉」)の設定ですね。最初は女性の視点から書く(う)と思っりましたが、三つ葉にしたことによつても苦労しました。(編) 落語家も真打ではなく二つ目にしたというのは何か狙いがあるのですか。(佐藤) ええ、上からなにかを教えるという(う)ことになつたんです。一緒に悩み一緒に考えるという(う)ことになつたんですから若い二つ目という(う)ことにしました。(編) 原作では三つ葉の住まいが吉祥寺でしたが映画では下町になっています。この違いについてなにかありますか。

(佐藤) 映画は二時間くらいと短いですがそのなかいろいろな要素を入れてしまうと印象が分かれてしまいます。その意味ではよかつたと思つています。(編) 映画のなかの国分くんの落語家としての演技はいかがでしたか。

(佐藤) 落語がすごくよかつたですね。プロの落語家の方も絶賛するほど素晴らしいものでした。普通は何年もかけて修行するのになつた一ヶ月くらいの練習であつてここまでできるのは驚いています。

(編) ところで最大の疑問なのですが題名の「しゃべれどもしゃべれども」に続くことばは何なのでしょう。

(佐藤) (笑) 監督の平山さんも「佐藤さん、このしゃべれどももの『も』はなんでしようね」とおつしやつてました。うーんしゃべれどもしゃべれども伝わらないこともある、だけどやっぱりしゃべらなければはじまらないというようなことでしょうか。



(今年公開された映画のパンフレット)

(編) さて今年の新作「一瞬の風になれ」ですがこの作品を書(う)と思つたきっかけは何でしたか。

(佐藤) スポーツを見るのが好きなんです。そこでスポーツを題材にしたものを以前から書きたいと思つていました。そこでリレーしかも四人というのが人物描写の点でも面白いんじゃないかというところからですね。

(編) 実際にかなり長期間の取材をなさつたようですね。(佐藤) 神奈川県立高校の陸上部ですが四年くらいかかつてしまいました。

(編) では最後に今後の活動についてお聞かせください。(佐藤) 次作はシリーズものの子供の本と一般向けの短編集をと思つています。

(編) とても期待できそうですね。本日はお忙しいなかありがとうございます。

(以下詳しい内容はマスコミ青山ホームページ)



新聞は情報源として一番信頼性が高いものとされてきましたがそのことに慢心しているという見方もあるようです。情報の質をさらに高めつつ、マーケティングの考え方を重視し、読者の多様な関心にフィットするものになることが必要でしょう。

新聞業界

新たな情報源としての方向性を

（株）読売インフォメーションサービス
清積哲也（六九法卒）

そして新聞以外の複数のプラットフォームを使うことにより縛られすぎない媒体になるべきだと思います。また地域性を活かした紙面をつくることにより、読者との距離を縮め社会的なネットワークやコミュニティのプログラムを目指していけばさらに情報源としての高い信頼性を保てるものと思っています。

ここ十年連続売上げ前年割れと雑誌の低迷よりは目を覆いたくなるほどです。原因は携帯やネットの普及です。そこで出版界は新たにデジタルコンテンツの配信やウェブ・マガジンを発行しはじめています。

出版業界

ウェブ・マガジンへの挑戦

集英社サービス（株） 福田収（六八経卒）

デジタルコンテンツには「携帯小説」や「携帯まんが」「アイドル写真集」などがありますが、有料配信のためそれなりの利益は稼いだしています。しかしウェブ・マガジンは無料から有料にしたとたん多くの読者が退会してしまうという状況です。ウェブは無料という意識をどこまで変えられるかが課題です。

インターネットと携帯電話が広告媒体として進化してきていることをきっかけに従来のマス媒体の役割や価値が大きく変容してきています。また一方メッセージとインタクトポイントを戦略的有機的に組み合わせ消費者とのあらたな絆作り（エンゲージメント）を

広告業界

メディア変革と人材が課題

（株）電通 竹岡敏行（七五理卒）

目指す「ビッグアイデア」など今までの枠組みを超える新しいコミュニケーションが増えています。これらの動きに伴いカンヌ国際広告祭でも近年「統合キャンペーン」と「プロモーション」が追加されています。今後の広告人にはこのようなメディア環境に対応できるより高度な創造性が求められると思います。

マスコミ業界近況報告



マスコミ青山会はマスコミ業界で活躍の皆さんで構成されています。したがって多くの会員の関心事はマスコミ業界の現状や今後のことだと思われれます。そこで今号では現在マスコミ業界で活躍の会員の方々にそれぞれの業界の近況や展望などお聞きしてみました。

テレビ業界はいま一大変革期を迎えつつあります。地上デジタル放送では高品質でより便利なテレビになり、ワンセグでは移動中の視聴が可能になりました。このテレビ業界大変革には「これからもテレビはお茶の間になくてはならない存在であり続けたい」という

テレビ業界

最強のメディアとして

（株）テレビ朝日 佐々木基（九二経卒）

思いがあります。その意味ではテレビより面白いものはすべてライバルで、テレビが人々にとって一番面白いものであるという気持ちでテレビの持つ影響力を後押ししています。

二〇一一年にはすべて地上デジタル放送に切り替わり、今後さらにコンテンツを充実させ最強のメディアを目指します。

広告媒体としてのラジオは縮小傾向にあります。ラジオのもつ親しみやすさや速報性の高さ、聴取者との強い結びつきなどラジオ本来のもつ特性は最近見直されつつあります。仕事や家事をしながらでも楽しめるながら聴取を活かし

ラジオ業界

特性を活かしたマルチメディア展開

（株）ラジオ放送 永田俊和（七二文卒）

インターネットを絡めたマルチメディア展開も注目されています。一方インターネットラジオや地上デジタルラジオなども登場し多様化が進んでいます。ラジオの場合デジタル放送が本格化してもアナログ放送は終了しないことになっています。今後はさらに高品質で多彩なサービスが期待されています。

インターネット業界は変化を遂げながら成長し続けています。その要因の一つ目は急速なインフラ整備です。パソコンや携帯電話のスペックが向上しネット環境が整うにつれ、人々の生活にインターネットは不可欠になっています。そのためユーザーの増加とともに

IT業界

大躍進の背景にあるもの

（株）サイバーエージェント 鈴木修（〇一経卒）

新たなサービスが次々と生み出されています。要因の一つ目は急速なメディア構造の変化です。ネットでのニュースや雑誌の閲覧、ブログやSNSでのコミュニティ形成、動画視聴やショッピングなどインターネットスタイルの変化はクロスメディア展開を急速に押し進めています。今後も若い力によってさらに変化し成長し続けます。

会員報告

宣伝会議コピーライター養成講座50周年
コラボレーション企画

スペシャルカレッジ 青山「書く」院大学開催



(左から秋元康氏・林真理子氏・眞木準氏・井口典夫本学教授)

本年7月15日(日)・16日(祝)の2日間、宣伝会議と青山学院大学とのコラボレーション企画「青山『書く』院大学」が青山キャンパスで開催されました。コピーやCM、アート、エンターテインメントなどをテーマにした全19のパネルディスカッションに計65人のクリエイターや学者、文化人などが登壇。クリエイティブの発信地・青山地区が延べ6177人の参加者の熱気に包まれました。

オープニングディスカッションのテーマは「言葉とクリエイティブ」。作詞家の秋元康氏、作家の林真理子氏、コピーライターの眞木準氏、青山学院大学井口典夫教授の4名とモデレータ・宣伝会議編集長の田中里沙氏によるディスカッションでスタートし、広告コピーの話からケータイの若者コミュニケーションにまで内容は広がっていきました。

「言葉とクリエイティブ」は常に一体のもの。しかしそこに別の視点を持つことで新たな潮流が生まれます。クリエイティブの発信地、青山で新たな息吹を感じる2日間でした。なお全19講演の詳細は宣伝会議9月1日号ならびに「青山『書く』院大学」HP(www.sendenkaigi.com/aoyama/)でご覧になれます。

(02営卒 宣伝会議 中村全信)

活動報告①

【フォーラム21】

「フォーラム21」はマスコミ青山会メンバーのサロン&勉強会として活動しています。今年は下記の5回実施しました。誰でも参加できますので詳しくは集英社サービス㈱福田収氏(03-5211-2616)(fukuda@hitotsubashi.co.jp)までご連絡ください。

- 07年1月29日
新年早々の懇親会。おもに参加会員の近況報告が中心。
- 07年3月27日…(講師)久保友香博士(東大先端科学技術センター)
「感動の伝達学」-感動を伝達する技術が伝統芸術のなかにあるという内容。
- 07年5月22日…(講師)石原孝哉氏(駒沢大学教授)
「幽霊好きなイギリス人」-ロンドンで人気の幽霊パブの紹介。
- 07年7月27日
暑気払いの懇親会。おもに参加会員の近況報告が中心。
- 07年10月3日…(講師)大島襄氏(慈恵医大名誉教授、前国際サッカー連盟医学委員)
「私とFIFA(国際サッカー連盟)の四半世紀」-スポーツ医学の権威であり日本サッカー協会顧問の氏を招いての講演。

活動はこのように2~3ヶ月に一度を予定しています。



(懇親会の模様)



(石原孝哉先生)

活動報告②

【三水会】

青学卒業生でマスメディア(テレビ、ラジオ、新聞、通信、出版、広告、アナウンサー、フリージャーナリスト、IT関連企業等)で働く人たちのために毎月第三水曜日に実施しているのが「三水会」。毎回各界で活躍する講師を招き、軽食をとりながら議論しています。興味のある方は、主宰である㈱アスコムの高橋克佳氏(82年経卒)(kat-t@ascom-inc.jp)までご連絡ください。最近のテーマは以下の通り。

- 「子どもの教育は家庭です時代」
講師:清水克彦氏(文化放送プロデューサー)
- 「議員秘書が語る安倍政権と小泉政権、ここが大違い! &こうなる! 参議院選挙最新分析」
講師:河村健一氏(河村建夫衆議院議員公設第一秘書、元文部科学大臣秘書官)
- 「副業こそ本業!?『働かないで年収5160万円稼ぐ方』の著書が教える、ネットビジネス最前線」
講師:川島和正氏(㈱インフォパブリッシング代表取締役)
- 「敏腕マンガ編集者が明かす 最新! マンガ、アニメ業界事情」
講師:松井栄元氏(元「週刊少年ジャンプ」編集長、現㈱ジークス代表)

マスコミ業界就職データ

青山学院大学マスコミ業界就職状況
全134名(2007年4月現在)

業界別	
【新聞・通信】	9名
【雑誌・出版】	32名
【放送・映像】	31名
【広告・制作・インターネット】	62名
合計	134名

(詳細はホームページをご覧ください)



十一月十日(土)マスコミ青山会総会開催!

今年のマスコミ青山会総会の日程が決まりました。昨年に引き続き土曜日の開催ですが、今年は日程を早めました。ぜひ多くの方のご参加をお待ちしています。講演には「私をスキーに連れてって」や「彼女が水着にきかえたら」などの人気脚本家、一色伸幸氏をお招きします。

「映画」と「僕の25年ドラマ」 〜ものへりどりの瀬池、そして明日〜

「自分が手がけられたヒット映画、エピソードの裏側から、大転換期にある現在の映像コンテンツづくりの現場の混迷と苦悩、そしてその処方箋までをお伺いします。」

- 日時 07年11月10日(土) 16:00~20:00
- 場所 アイビーホール青学会館(渋谷区渋谷4-4-25)
(TEL)03-3409-8181
- 会費 10000円(年会費3000円+総会費7000円)
(学生の総会参加費5000円)
- 内容 ①第一部 16:00~17:30
(総会)一色伸幸氏講演(②会場「シヤロン」2階)
②第二部 18:00~20:00
(懇親パーティ)③会場「サフラン」(地下2階)

(※お申込み...①FAXは同封の総会案内裏面に必要事項を記入後 03-3409-8181
(マスコミ青山会事務局)まで
②Eメールは、info@mc-aoyama.netまで
締め切り...10月31日

【マスコミQ&A】

毎年開催している現役学生に対するマスコミ業界志望者への説明会です。

- 日時:07年10月22日(月) 18:00~21:00
- 場所:9号館 910室ほか
- 内容:マスコミ業界の概要と採用側のチェックポイント
(新聞・出版)(テレビ・ラジオ)(広告・制作・ネット)の3カテゴリーに分け、各業界の情報提供並びにアドバイスをしてもらいます。またマスコミ業界に、来年4月入社予定の内定者から体験談を話してもらいます。
- 問い合わせ:青山学院大学 進路就職センター

講演:脚本家 一色伸幸氏



一色伸幸(いしき・のぶゆき)氏 脚本家。一九六〇年、東京都生まれ。青山学院大学中退後、一九八二年「火曜サスペンス劇場」松本清張の春梁で脚本家デビュー。映画、ドラマ、アニメ、舞台、ゲームなど数々の人気脚本、まんが原作を手がける。映画「病院へ行こう」「僕らはみんな生きている」で日本アカデミー賞優秀脚本賞を受賞。主な作品に、映画「私をスキーに連れてって」「彼女が水着にきかえたら」「山村ワルツ」「木村家の人々」「病院へ行こう」など。著者のそのときの心が作品のテーマやキャラクターに投影されていることが多い。



『うつから帰って参りました』(九月末発売・スズコム刊)

一色氏の近著『うつから帰って参りました』は、ドラマづくりのめりこむあまり、うつ病を患い、消えてなくなりたいと七転八倒の逃避をする一色氏が、やがて家族の力を得て、病氣と向き合い克服するまでの手記。切なくもおかしい闘病生活をテーマにした、初めてのエッセイである。

昨年よりホームページが新しくなりました。
<http://www.mc-aoyama.net>
昨年よりマスコミ青山会のホームページが新しくなりました。随時更新をしていきますのでぜひご覧になってください。

祝へギー葉山さん 歌手生活55周年

マスコミ青山会副会長のへギー葉山さんが今年歌手生活55周年を迎えました。昭和27年(1952年)キングレコードから「ドミノ」「火の接吻」でデビュー以来、「南国土佐を後にして」をはじめとする数々のヒット曲で多くのファンから愛されています。歌手生活55周年を心よりお祝い申し上げるとともに、今後のご活躍をご期待しています。



へギー葉山55周年記念コンサート
2007年10月26日(金) 青山劇場
開場18時 開演18時30分
特別ゲスト ダークダックス
秋満義孝 前田憲男
原信夫とシャープスアンドフラッツ
チケット発売所 ぴあ・ローソン
プレイガイドにて

【会員消息】

戸田正彦さん(71年文)は㈱アイエープロモーションネットに異動になりました(03-5556-37182 直通)。
福田収さん(68年経)は集英社サービス㈱代表取締役になりました(03-5211-2616)。

【編集後記】

猛暑だった今年の夏も終わり、この原稿を入手している今はさわやかな秋風の心地よい季節となりました。地球温暖化を心配しつつ、冷房温度をあげた頃が懐かしく思えます。今回の会報はくしくも作家の佐藤多佳子さんと脚本家の一色伸幸さんと文学関係の方が中心になりましたが、いかがだったでしょうか。慣れない会報づくりですが、今後も会員の皆様のコミュニケーションの一助になれば幸いです。なにぞ忌憚ないご意見などいただければ幸いです。

(編集担当) 鈴木章・小竹杏美
(TEL) 03-0001 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-1-23-1
(e-mail) info@mc-aoyama.net

2007年マスコミ青山会総会のご案内

マスコミ青山会
会長 安藤孝四郎

11月10日(土)
16:00~20:00

マスコミ青山会総会の時期が近づいてまいりました。
今年も昨年に引き続き土曜日開催となりましたので、ご案内いたします。

総会後の講演では「私をスキーに連れてって」や「彼女が水着にきがえたら」などの
人気脚本家、一色伸幸氏をお招きします。
ご自身が手がけられたヒット映画、TVドラマの裏側から、
大転換期にある現在の映像コンテンツづくりの現場の混迷と苦悩、
そしてその処方箋までをお伺いします。

講演：脚本家 一色伸幸氏

(テーマ) 「『映画』と僕の25年ドラマ」 ～ものづくりと心の混沌、そして明日～

一色伸幸(いっしき・のぶゆき)氏

脚本家。1960年、東京都生まれ。青山学院大学中退後、
1982年「火曜サスペンス劇場 松本清張の背梁」で脚本家デビュー。
映画、ドラマ、アニメ、舞台、ゲームなど数々の人気脚本、まんが原作を手がける。
映画「病院へ行こう」「僕らはみんな生きている」で
日本アカデミー賞優秀脚本家賞を受賞。
主な作品に、映画「私をスキーに連れてって」「彼女が水着にきがえたら」
「山田村ワルツ」「木村家の人々」「病院へ行こう」などがある。
著者のそのときの心が作品のテーマやキャラクターに投影されていることが多い。



(一色伸幸氏)



一色氏の近著『うつから帰って参りました』は、ドラマづくりにのめりこむあまり、
うつ病を患い、消えてなくなりたいと七転八倒の逃避をする一色氏が、やがて
家族の力を得て、病氣と向き合い克服するまでの手記。
切なくもおかしい闘病生活をテーマにした、初めてのエッセイである。

『うつから帰って参りました』(9月末発売:アスコム刊)

- 日時 : 2007年11月10日(土) 16:00~20:00
場所 : アイビーホール青学会館(渋谷区渋谷4-4-25) (Tel)03-3409-8181
内容 : (第一部) 16:00~17:30 (総会、一色伸幸氏講演)... (会場)「シャロン」(2階)
(第二部) 18:00~20:00 (懇親パーティ)... (会場)「サフラン」(地下2階)
会費 : 10,000円(年会費3,000円 + 総会費7,000円) (学生は参加費5,000円)
申し込み : 10月31日までに次のいずれかの方法でお申し込みください。
①FAXの場合—裏面に必要事項ご記入のうえ 03-3389-8005(事務局)まで
お送りください。
②Eメールの場合—info@mc-aoyama.net までご連絡ください。
振り込み : 会費は総会当日受付が大変混雑いたしますので同封の郵便振替用紙にて
10月31日までに振り込みをお願いいたします。
①年会費 3,000円 + 総会費 7,000円 10,000円
②総会費のみの方 7,000円
③年会費のみの方 3,000円

(※)総会・パーティに関するお問い合わせは、阿部誠(TEI:080-5027-8008 またはメールmac-abe@rc4.so-net.ne.jp)まで。

FAX
03-3389-8005
マスコミ青山会事務局 宛て

11月10日(土)の総会・パーティに

出席 ・ 欠席
(どちらかを○でお困みください)

※ マスコミ関係業種OBの方は旧勤務先名をご記入のうえ、後ろにOBとお書きください。
※ 現役学生の方は、学歴欄に学部と学年をお書きください。

フリガナ 氏 名		
住 所	〒	
	(TEL)	
勤務先	勤務先名	
	部署	
	住所	〒
	(TEL)	
	(E-mail)	
青山学院の最終学歴		
年 学 部 卒 ・ 中 退 ・ その他		